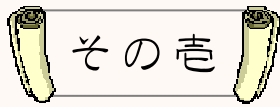


「正倉院展」と談山神社の旅



奈良散策

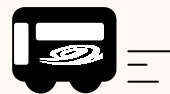


秋、今年も奈良に**正倉院展**の時期がやってきました。

奈良国立博物館での開催は今年で第 60 回を迎えるそうです。初出陳の宝物が 18 件もあるとのこと。しかも、奈良は紅葉の見どころもたくさん。

これはぜひ、見に行かなければ！っと思ひ奈良へ向かいました。


11 月の連休明け、徳島から奈良へ高速バスでの旅です。



いつものように 4 時間余りで奈良へ到着。まずは腹ごしらえ。

いろいろな奈良の郷土料理や特産品  を食べてきたけど、まだまだ食べていない

ものがたくさん！と言うことで、お昼は郷土料理として有名な**飛鳥鍋**をいただきました。

飛鳥鍋＝牛乳鍋…。しかも、鍋で牛乳  かぁ。(-_-)


実は牛乳はあまり好きではないんだけど、あえて挑戦です。(-_-)

待つこと十数分、小さな鍋には白い液体。具材は野菜に鶏肉・海鮮。鶏肉はともかく、海鮮ものは、はたして牛乳にあうのか？いろいろ考えながら、具材を鍋に投入！

期待と不安が入り交ります。鍋を見つめているうちに、そろそろ食べごろに…。


いざっ、と意気込んで一口ぱくっと食べてみると、めちゃめちゃ美味しい(^^)

牛乳に感じる臭みはなく、甘くてシチューの味を薄くしたようなカンジです。

しかも、牛乳とだしの風味豊か。これなら、肉も海鮮も大丈夫。 

ちょっと抵抗があったにもかかわらず、ものすごく飛鳥鍋が好きになりました。

飛鳥鍋は古代の記録をもとに、再現されているそうです。古代の人々もこの鍋を食べながら寒い冬を乗り切ったのかと思ひながら、思わぬ美味しさにかなり感動しました。

お腹も心も満腹になり、大和路随一と言われる、紅葉の名所 '**談山神社**'  へと向かいます。

談山神社とは？

大化の改新で有名な、藤原鎌足を祀った神社です。


名前の由来は、大化の改新の前までさかのぼります。藤原鎌足と中大兄皇子が大化の改新の密談を多武峰で行い、のちに「談い山」と呼んだことに起源を発するそうです。

前身は藤原鎌足の長男・慧定が多武峰山頂に鎌足公の遺骨の一部を改葬し、建立した妙楽寺です。その後、神殿を建て、鎌足公の神像を安置したのが、談山神社の始まりです。




「談山神社 」続き・・・

JR奈良駅から桜井駅まで30分少々、桜井駅から今度はバスに乗り換えて談山神社まで移動します。紅葉の時期、臨時バスも運行していてとっても便利です。

バスは30分くらいかけて山道をのぼっていきます。終点が談山神社の駐車場  です。ここから、表示に従って神社を目指して歩きます。

上りと下りの表示があり、とりあえず坂を登る方を選んでみました。急な坂道を登ると、今度は急な下り坂！？ いったい神社はどこ？ と思いながら進んでいくと、神社入口の看板が…。ほっとしながら、入山受付へ。

ほとんどの建物が重要文化財。談山神社の屋根は檜皮葺が多いそうです。しかも、檜皮葺屋根は30年毎に葺き替えをしなければならないそうです。

ちょうど、訪れた時は平成の大修理  の真っ最中でした。

有名な十三重塔の修理は9月で終了。木造の塔としては世界唯一とのこと。修理が終わっていて、よかったと思いながら訪れました。が、ちょうど権殿が11月から修理に入ってしまったので、十三重塔との隣接する景色を見ることが出来ませんでした。ちょっと残念…。

本殿は日光東照宮を造営の際、手本となった建物だとか。

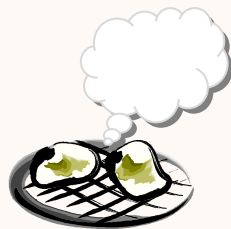
確かに朱塗の絢爛豪華な極彩色模様や彫刻で装飾されていました。細かな技術にただただ見とれるばかりでした。次に本殿から拝殿へと向かいます。

拝殿は舞台のようになっていて、軒先には釣燈籠が並んでいます。拝殿から見る眺めは、本当に見事だと思います。ただ、紅葉はまだ三分くらいだそうで、見頃は11月中旬ころらしいです。写真で見るとような景色は見られませんでした。ところどころに色づいた木々を見かけることが出来ました。緑からだんだん朱へと移ろいゆく様を見るのも、また違ったゆしみかたではないかと思いました。秋の足音を感じるひとときでした。

帰りは正面入山受付から神社を後にしました。

駐車場までの参道には、軽食やお土産ものを販売するお店が並んでいます。

どのお店でも、焼きもち・とちもちが店先の鉄板の上で、甘い誘惑をしています。また、鍋の中には蒟蒻が。これからの寒い季節には、冷えた体を温めるのにちょうどいいなあと思いました。





焼きもちがあつあつで、かなりやわらかいです(^^)とっても、美味しかったです♡

翌日は今回奈良訪問のメイン、**正倉院展**に行ってきました。

前日、JR奈良駅で正倉院展の入場制限、70分待ちの看板を見ていただいただけに、入場を待つのを覚悟して国立博物館を目指しました。

JR奈良駅からバスに乗車。バスの車中からは、国立博物館を目指すたくさんの観光客を見ました。バスの乗客もみんな、正倉院展がお目当てなんだろうと思いながら到着を待ちました。

案の定、乗客はほぼ私たちと一緒に下車し、博物館の方へ。朝10時なのに、すでに入場制限の看板が！現在15分待ちとのこと。

しかも入場チケットを購入後に、列に並ばなければなりません。余談ですが、コンビニでも入場チケットを購入出来るようです。ちょっと意外でした。

正面に団体客専用入場口、横に一般客入場口があります。さて、チケットを持って列に並びますか…。ちょっと待っているうちに、後ろにどんどん人が増えてきます。

私たちの並んでいる列はいっぱいになり、隣にも列が…。10分くらい待っている間に3列目にも人が並び始め、あつと言う間にあふれんばかりの人波です^_^;

係員の方も大忙しです。最後尾の看板を持って、あっち行ったり、こっち来たり…。

なかなか大変です。

去年は結構すんなり入れたように思ったんだけど…。平日なのにすごい人出です。

長蛇の列にみとれてる間に、やっと順番がやってきました。

人波に揉まれる覚悟を決めて、いざ入場です。博物館の中は予想通り、人であふれていました。

今年は69件の宝物が出陳され、うち18件が初出陳だそうです。


展示構成は光明皇后によって献納された聖武天皇の遺品、佩飾品など皇族・貴族たちの献納品、天蓋などの仏具、飲食器、文書、経典となっています。

当時の技術の粋を集めた工芸品や交易品には見とれるばかりでした。

聖武天皇遺愛の宝物品である平螺鈿背八角鏡は南洋で取れる夜光貝を使用し、琥珀やトルコ石などの宝石で彩られています。


刻彫尺八は細かな彫刻が施されており、もしかしたら聖武天皇も奏でた♪品かも！？

大仏に捧げた品々には紫檀木画双六局等の細かな細工の工芸品が。


中でもメインはやっぱり、白瑠璃碗！ペルシャから伝わったガラス器で、シルクロード交易を示す品として、かなり有名です。実際に見てみると、外側に円形のカットが施され、美しい輝きを放っていました。いつまでも見飽きることなく、眺めていられそうでした。

工芸品もさることながら、美しく装飾された帯や染織品も伝わっています。さまざまな‘織り’の技法や‘染め’の技術、組紐や刺繍などのさまざまな古代の技法を今に伝えています。すべて手作業だった時代、どれだけの労力と時間を費やしたのかと思ひ馳せました。


天蓋や幡などは、奈良時代の華やかな仏教文化を物語っているように感じました。その他いろいろな宝物がありました。‘椰子実’ ユーモラスな笑いを誘う一品でした。香木の展示もありました。香木は科学的に鑑定され、産地まで特定されているとか…。すごいです。

ゆっくり展示案内を読んで、展示品を見て回るにはやはり、2時間  くらいは時間が必要だと思います。たくさんの方が限られた期間に、その時にしか目にすることが出来ない古代の宝物を求めて、博物館へと足を運びます。驚いたり、感動したり、感心したり…。見る人によって、感じ方はさまざまだと思いますが、ぜひ一度は足を運ぶ価値があると思います。

展示を見終わってエントランスへ。正倉院展の開催中だけ、国立博物館‘結の会’会員のボランティア団体の方々による、野点のお茶会が催されていました。

西新館南側ピロティにて、中庭を眺めながらお抹茶とお菓子をいただきました。  人の多さに少し疲れ気味だったので、甘いお菓子とお抹茶で元気になりました(^)

国立博物館を後にし、お待ちかねのお昼ご飯です。

博物館のすぐ近くに奈良でははじめての総合飲食施設‘ふれあい回廊 夢しるべ 風しるべ’が今年の3月にオープン。私たちはその中の‘黒川本家’でお昼  をいただきました。

‘黒川本家’は全国の一流料亭などに吉野葛粉を提供している、創業1615年の吉野本葛の老舗です。

その葛を使った料理や和洋スイーツをいただける茶寮で‘奈良のうまいもの’の一品、‘大和地鶏丼’と‘葛餡かけ丼’を。 

どちらもランチメニューで、デザートに吉野葛を使った‘ブランマンジュ’をいただきました。ほんのりとした甘さとなめらかな食感に、‘もっと食べたい’と思いました。奈良の和洋スイーツは本当に美味しいです。ぜひおススメです。

たっぷり、ランチを堪能し興福寺へと移動です。

前回、開館時間には間に合わず、行けなかった国宝館へ。

ここにはあの有名な‘阿修羅像’があります。

展示品は仏像彫刻・絵画・工芸品・書籍等の国宝・重要文化財ばかり。特に仏像彫刻を見ていると、心を見透かされているような、不思議な感覚に陥ります。人間の手で造られたものですが、それを超えた‘何か’があるように思います。

目の前で見ただけの阿修羅像も、写真で見るとは違っていました。造る人の魂、大切に守る人の魂がそう感じさせるのかも知れません。

穏やかでいて、心ざわめく不思議な空間です。

今回2日間、奈良で秋と古代の人々の心を感じてきました。

古いものを大切に、守り受け継ぐ心。古代の時代から現在まで、奈良の人々の中で脈々と引き継がれてきたことだと思います。

今、失われていても不思議ではないものが、私たちの目の前にあります。

その奇跡を見ることが出来ます。感じる事ができます。

あなたも奈良を感じてみませんか？古代の人々と対話してみませんか？

違う世界を感じる事が出来るかも、知れませんが(^)/

